

蔵王・熊野岳&鳥海山山行報告

【山行日】2016年9月10日～11日(土日)

【集 合】栃木市運動公園P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 15,300円

【メンバー】CL:鈴木ユ 大西、島田、関、津佐、
藤原、渡辺

10日 曇り後晴れ 大黒天Pから刈田岳経由で熊野岳に登り、下山後鳥海山中腹の大平山荘へ

栃木市運動公園P5:00＝大黒天 P8:00/8:15～刈田岳
9:10～熊野岳 10:10/10:40～レストハウス 11:25/12:10
＝大平山荘 15:50

今年の東北日本百名山第2弾は、蔵王・熊野岳と鳥海山を登ることにした。今年は台風の影響で天気が悪く、今回も台風と前線の影響で天気予報が二転三転した。前日、10日は太平洋側の宮城県が晴れで、11日は日本海側の秋田県が晴れの予報になった。白石 IC で降りると晴天で、今日の登山は青空の中を歩けると期待が高まる。ところが蔵王エコーラインに入り、刈田岳方面の山に雲が掛かり風も強くなってきた。駒草平でトイレに寄ると、強風で車から降りるのも大変な状況だった。トイレの窓も強風にあおられ、ヒューヒューと音を立てていた。登山口の大黒天駐車場に着き、山を見上げるとガスに包まれ木々も風で揺れていた。少し肌寒かったが登れると判断し、ストレッチを済ませて出発する。



道路を渡り登山口の標識を見て、階段を上って行く。沢に沿って尾根を進み、晴れていれば対岸に黒い火山礫の山が見え、いかにも火山の山だと感じられる所だが何も見えない。急坂を黙々と登り、最初のピークに登ったあたりから時折太陽がうっすらと見えるようになる。刈田岳避難小屋の脇を通り、刈田嶺神社がある山頂に着く。立派な神社で、昔はここが蔵王山の山頂であったと言う。神社に参拝し、幅広い参道を降りてお釜の展望台に出るが、ガスでお釜は見えなかった。ここからは、レストハウスへの道を左に分け、広い馬ノ背の山稜を歩いて行く。

本来なら右側にお釜の絶景を見ながら、快適に歩けるはずだがガスで見えない。傾斜が急になり、10分程頑張ると避難小屋がある稜線に出る。稜線を左に進み、広く平らな登山道をわずかに進むと熊野岳神社がある山頂に着く。山頂は平らで広く、神社の西側に熊野岳山頂の標柱が立っている。山頂で写真を撮り、少し早いランチタイムにし、ちたけうどんを作っているとガスが晴れ、山形盆地や周囲の山々が見渡せた。少し前までガスで何も見えなかったが、劇的にガスが晴れ皆さん大感動の声があがる。ところが、昼食を食べている間にガスに包まれ、何も見えなくなる。眺望を諦めて下山し、来た道に戻ることにする。ところが、下山途中で再び晴れ渡り、熊野岳山頂やお釜がはっきり見えるようになる。エメラルドグリーンのお釜と、お釜を抱え込むようにそそり立つ五色山の山肌は火山の恐ろしさと美しさ併せ持ち、神秘的光景を見せてくれる。お釜をバックに記念写真を撮り、美しい風景に見入っているとガイドの方が来て「奥に見えるの

ある山頂に着く。立派な神社で、昔はここが蔵王山の山頂であったと言う。神社に参拝し、幅広い参道を降りてお釜の展望台に出るが、ガスでお釜は見えなかった。ここからは、レストハウスへの道を左に分け、広い馬ノ背の山稜を歩いて行く。本来なら右側にお釜の絶景を見ながら、快適に歩けるはずだがガスで見えない。傾斜が急になり、10分程頑張ると避難小屋がある稜線に出る。稜線を左に進み、広く平らな登山道をわずかに進むと熊野岳神社がある山頂に着く。山頂は平らで広く、神社の西側に熊野岳山頂の標柱が立っている。山頂で写真を撮り、少し早いランチタイムにし、ちたけうどんを作っているとガスが晴れ、山形盆地や周囲の山々が見渡せた。少し前までガスで何も見えなかったが、劇的にガスが晴れ皆さん大感動の声があがる。ところが、昼食を食べている間にガスに包まれ、何も見えなくなる。眺望を諦めて下山し、来た道に戻ることにする。ところが、下山途中で再び晴れ渡り、熊野岳山頂やお釜がはっきり見えるようになる。エメラルドグリーンのお釜と、お釜を抱え込むようにそそり立つ五色山の山肌は火山の恐ろしさと美しさ併せ持ち、神秘的光景を見せてくれる。お釜をバックに記念写真を撮り、美しい風景に見入っているとガイドの方が来て「奥に見えるの



が金華山です。」と説明してくれた。綺麗に晴れ上がり、太平洋まで見通せ、皆さん大感激。レストハウスへの分岐で分かれ、我輩は車を回収に大黒天の駐車場まで戻る。皆さんはレストハウスでトイレを済ませ、お土産を買って待ってもらう。無事レストハウスで合流し、ここから今宵の宿「大平山荘」へ向かう。山形自動車道を通り、月山 IC 手前から雨になり月山トンネルを抜けると雨脚が強くなった。酒井みなと IC で高速を降り、コンビニに寄って明日の昼食を買い宿に向かった。大平山荘は鳥海山の中腹にある国民宿舎。温泉ではないが大浴場があり、食事もおいしく料金も山小屋より安い。風呂から上がると宴会が始まり、今日の蔵王山と明日の鳥海山の話しながら焼酎が進む。夕食を美味しくいただき、明日のお弁当を受け取り部屋に戻る。部屋に戻り、天気予報を確認すると晴れの予報。天気予報を信じ、明日に備え早めに床に就いた。



11日 晴れ 鉾立登山口から御浜小屋・千蛇谷コースを經由し山頂へ登り、来た道に戻って鉾立登山口に下山し栃木市運動公園Pに帰着。

大平山荘 5:00＝鉾立登山口 P5:10/5:30～賽ノ河原 6:50～御浜小屋 7:30～七五三掛 8:30～御室 10:50～新山 11:10/11:20～御室 11:40/12:00～七五三掛 13:20～御浜小屋 13:50～鉾立登山口 15:30/15:40＝栃木市運動公園 P21:45

朝4時に起き、窓の外を見ると星が見え天気は上々のようである。宿の弁当を食べ、出かける準備を



して車に乗り込み鉾立に向かう。鉾立の駐車場に着くと、すでに20台位車が止まっており、支度を終えた登山者が出発して行く。我々もトイレを済ませ、ストレッチを行って登山届を出して出発する。

広く舗装された道を登り、すぐに奈曾溪谷展望台に着く。ここからは、溶岩台地を深く浸食する奈曾川や、これから登る鳥海山がひととき高く望める。

展望台からは、石を敷き詰めた登山道を登って行く。1時間程登ると傾斜が緩くなり、賽の河原の標識がある平坦地に着く。小沢をいくつか渡り、チシマザサの傾斜地を登ると小湿原に出る。これを横切り、山稜を

巻くように登ると御浜神社がある御浜小屋に着く。御浜は展望が良く、小屋の裏側には鳥ノ海と呼ばれる火口湖が美しい。大勢の登山者が休憩しており、我々もトイレを借り休憩する。ここからは岩の尾根を登り、扇子森を越えて御田ヶ原に下り、七五三掛に登り返す。七五三掛で休憩し、冷たい梨を食べ喉を潤す。階段状の木道を登ると外輪山コースとの分岐となり、左に降りて千蛇谷コースへ向かって降りて行く。ところが、この登山道は去年崩落があり、分岐を少し登った所に新しいコースが出来ていた。地元の方に確認すると、旧コースも修復されているので通行可だが、荒れているので慎重に下ってくださいとのこと。崩落箇所は、鉄パイプと鉄板で補修されていたが、登山道は荒れているのでゆっくりと通過する。千蛇谷の雪渓は雪が殆どなく、岩の間をペンキマークに従って通過する。谷の対岸に登ると草原の中を登るようになり、花を楽しみながら爽やかに登れる。荒神ヶ岳の山腹を登るようになると傾斜がきつくなり、新山からの巨岩の押し出しを横切って登ると大物忌神社参籠所が建つ台地に出る。ここにザックをデポし、大きな岩を積み上げたような新山



の山頂を目指す。大きな岩に付けたペンキマークを忠実にたどり、岩間の切通しを抜けると一登りで山頂に着く。山頂からは360度の大パノラマが広がり、眼下には日本海が俯瞰出来、遠くには岩木山や



八甲田山、岩手山等、東北の名山が見渡せる。海に近い独立峰の鳥海山は、山頂に雲が掛かりやすく、これほど眺望に恵まれるのは珍しいそうだ。大パノラマを堪能したら、記念写真を撮り下山する。

来た道に戻り、大物忌神社まで降りてランチタイムとする。今日の山ご飯は醤油ラーメンと残ったおにぎり。汗で失った塩分を、ラーメンの汁で補い元気が出る。大物忌神社のキレイなトイレを借りて下山する。

下山は来た道に戻り、千蛇谷を横切り新しくつけられたコースを登る。途中のベンチで休憩し、ブドウを食べながら振り返ると、山頂はガスで見えなくなってい

た。七五三掛まで下り、扇子森の登りも元気良く登り切り、御浜小屋で休憩を取る。ここからは岩を敷き詰めた登山道を淡々と下り、予定通り鉾立登山口に着いた。『名山と呼ばれるにはいろいろ見地があるが、山容秀麗という資格では、鳥海山は他に落ちない』と深田久弥が「日本百名山」で書いているが、まさに東北の盟主にふさわしい魅力ある山に登ることが出来、大満足の山行となった。

